

ネパールでの新型コロナウイルス感染拡大の現状 その3

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
 理事長 マナダール マダーブ ナラエン

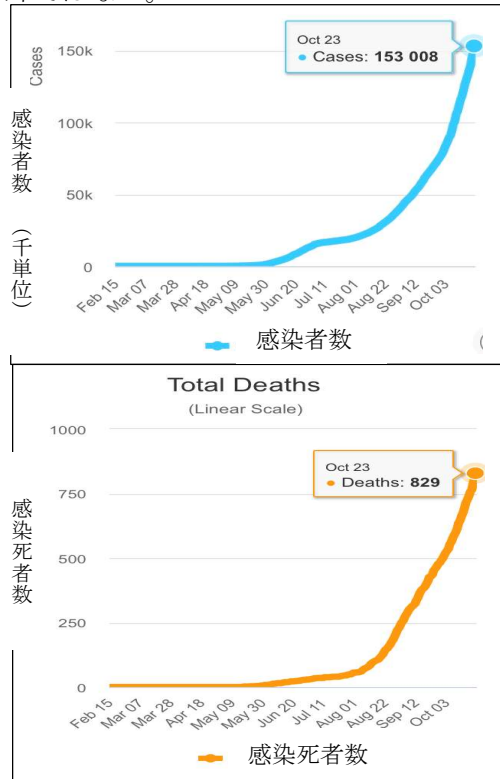
今年もあと2か月余り、オリンピックの年として期待されたこの一年は世界中がコロナパンデミックで覆われました。日本では長かったコロナ自粛もGoToキャンペーンが始まり公共交通機関は以前のような人出となっているように見えます。しかし感染予防のマスク装着は皆さん、きっちり守っているようです。行く先々での手の消毒、帰宅後の手洗い、検温と暫くはこの生活が続くのでしょう。これが定着するのかもしれませんが。今回はネパールからの里子便りを多く載せることができましたが、コロナの話題一色になってしまいました。そういう私もコロナ関連の話で、これを抜きにはネパールの情報をお伝えできない現状となっています。

ネパールでは、新型コロナウイルスの感染者は10月23日時点で153,008名に達し、死者数も829名に増加した。東、西、南の国境はインドと陸続きで接しているネパールは、お互いの国民が自由にビザ無しで行き来できるため、感染者は5月以降増え続けている。

今年初めから暫くはネパールでのコロナの脅威はないように思われた。5月下旬から徐々に感染者が増え死者が出るようになり、10月下旬には一日の感染者数は3,000名以上に上った。知り合いや親戚にも殆どが無症状ではあるが、感染者が出始めている。

これからはダサイン祭とティハール祭が始まる。祭りに、これからの冬の季

節、ますます増えることが懸念される。特に首都カトマンズを中心に都市部で感染が広がると心配されている。地方も例外ではない。



ダサイン祭・ティハール祭

今年、ネパールでは10月17日から国の最大の祭りダサインが始まった。ダサイン祭の2週間は全国の学校は完全に休みである。仕事をしている人は1週間前後休みにになり、都会に住む住民の移動が始まっている。役所は23日から28日まで休みにになっている。ネパール政府はこの祭りのために、先月から長距離バスや飛行機の国内線、宗教施設の再開を決定した。乗客はマスクとフェイスマスクの着用を義務付けられ、政府が定めた3密

を避ける指示が出された。ティハール祭は11月4日からである。

教育現場

学校はダサイン中、休みである。ダサイン終了後、何日かしてティハールが始まり、また5日間の休みとなる。コロナ感染拡大の影響で学校教育は大変遅れているが、それでも最大の年中行事は外すことができないようだ。教育省は一時期行ってきた一部の対面授業はダサイン後ONLINEで行うよう指示を出した。子供たちの進学を妨げることのないような形で学習時間とカリキュラムを約30%削減、テストもONLINEで再開することとした。毎年1学年あたり1,024時間の授業実施を1年生から3年生までの学習時間は690時間、4年生から10年生までは848時間となった。教育省は今年度に限ってはこのカリキュラムで例年通り来年4月で終了させることにした。

大学教育の場合、新型コロナウイルス感染拡大による全国ロックダウンでの授業中止や延期されていたテスト等を実施できるようにした。テストを行う際には教室の大小に関係なく一部屋は20名までの学生にする。テストを実施する際、地域教育委員会の健康管理指針に従わなければならないとしている。

交通ルールの取り締まり強化

ネパールの道路事情はあまり良くない。町中の交差点での信号も殆どないための渋滞は激しい。政府は密を避けるため、日にち毎に走れる車を末尾が奇数ナンバーと偶数ナンバーに分けて決めている。

違反者への取り締まりは強化され、罰金を伴うものとなった。

カトマンズでは乗り物や宗教施設での感染、家族間感染が拡大している。不完全なマスク装着等で感染防止を怠っている影響も大きい。都市から地方への拡大も懸念されている。医療が脆弱な地方への集団感染は大きな問題となる。

経済への影響

コロナ感染拡大で物価の上昇が著しい。交通が遮断されているため都市部における主要な野菜（大根、トマト、ジャガイモ、タマネギ等）の価格が急上昇、すべてのビジネスで非常に深刻な影響が出ている。

観光立国として成り立っているネパールの深刻な問題として観光業の見通しがまったく立たない。多くの人々が職を失ったため、購買力は落ち、そのため商店の売上も落ちている。また賃貸アパートに住む人たちも無収入や収入減により家賃を払えずにいる。家賃で暮らしている家主も無収入となる。これら負のスパイラルによる経済の停滞が続いている。

医療崩壊寸前

ネパールの医療制度は全国に行き渡っていない。PCR検査は有料であるため受けられる人は限られている。コロナ感染者増で受け入れ先の病院が足りない現状である。政府は軽症患者に対しては自宅療養を勧めている。

これから世界がどのようになっていくか、これまでのあり方が問い直されている。